

◆ 今週のコメント

- インフルエンザの定点当たり報告数は京都市では5.93(409例)となり、前週の9.10(628例)から減少しました。市内10行政区で「注意報レベル」を下回り、徐々に報告数は減ってきましたが、今後も体調管理に注意し、手洗いやうがい、咳エチケットなど予防をして下さい。インフルエンザの発生状況や予防対策については、下記URLを御参照ください。
 - インフルエンザの発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
 - 京都市こどもの感染症(令和2年2月号)「てあらいでインフルエンザを予防」(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000146238.html>
 - インフルエンザの発生状況について(健康安全課ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000051303.html>
- 新型コロナウイルス感染症については、下記のような手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症対策に努めていただくことが重要です。

- ・まめに手を洗いましょう。石鹸を使い、流水でよくすすぎましょう。
- ・新型コロナウイルスに限らず、病原体は主に口・鼻・目から体に入ります。外出後や咳の後は特に、口・鼻・目に触る前に手洗いを徹底しましょう。
- ・咳をする場合には口や鼻をティッシュで覆うなど、咳エチケットを守りましょう。急に咳が出てしまう時は、しぶきが飛ばないように服の袖や肘を使いましょう。周りの人への感染を予防するため、マスクを着用しましょう。
- ・人が多く集まる場所は、なるべく避けましょう。

詳細については、下記のホームページを御覧ください。

- 京都市情報館【緊急情報】新型コロナウイルス関連のお知らせ
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000263411.html>

◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

京都市では、厚生労働省のエイズ動向委員会の発表に合わせて、半期ごとのエイズ患者・HIV感染者数を公表しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・二類: 結核 3例(肺結核 1例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 37例(肺結核 19例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 16例)うち喀痰塗抹陽性 7例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

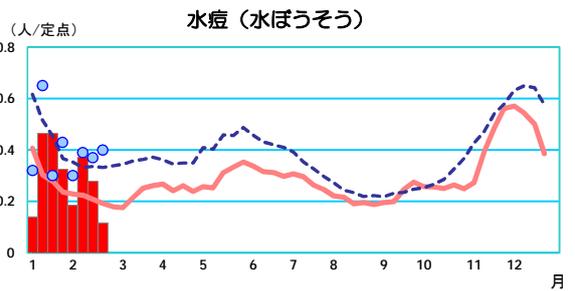
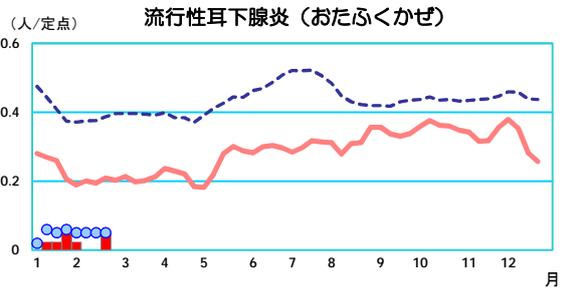
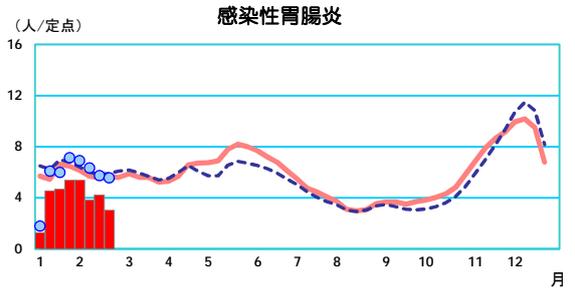
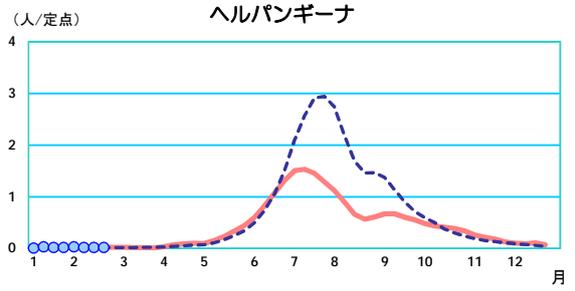
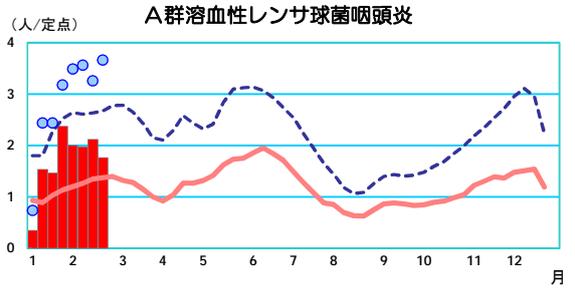
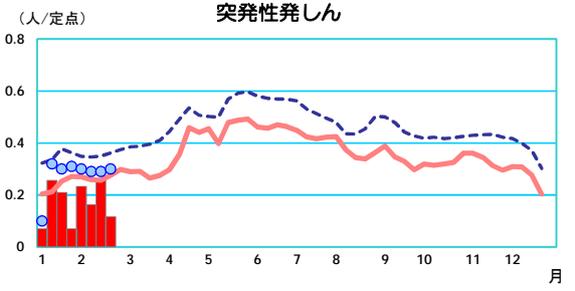
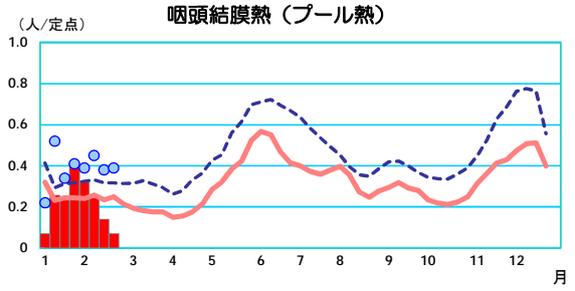
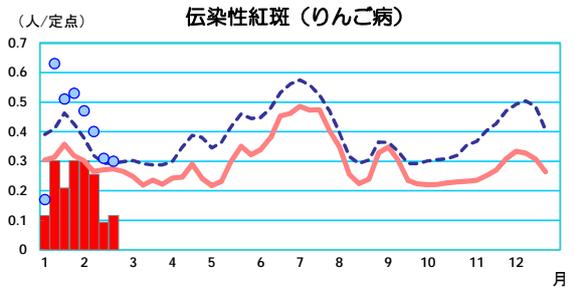
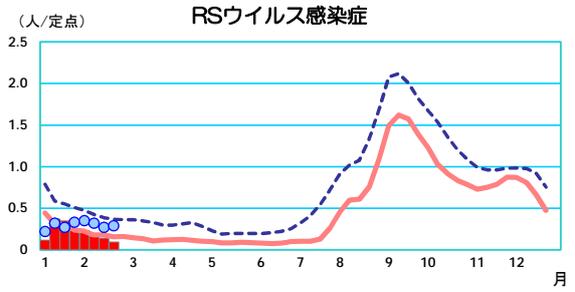
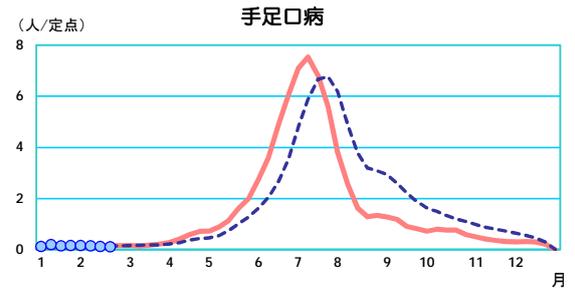
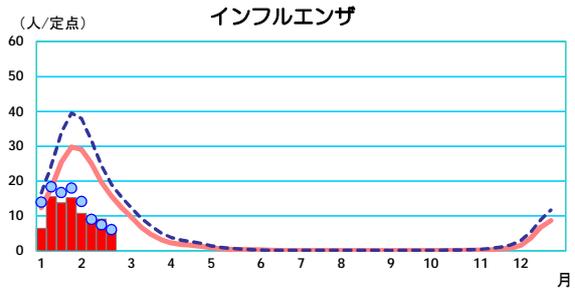
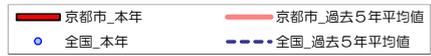
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	5.93	409
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.02	130
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.77	76
	③ 水痘	0.12	5
	③ 伝染性紅斑	0.12	5
	③ 突発性発しん	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

【次ページ以降の主な内容】

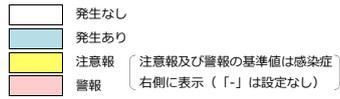
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2020年2月28日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

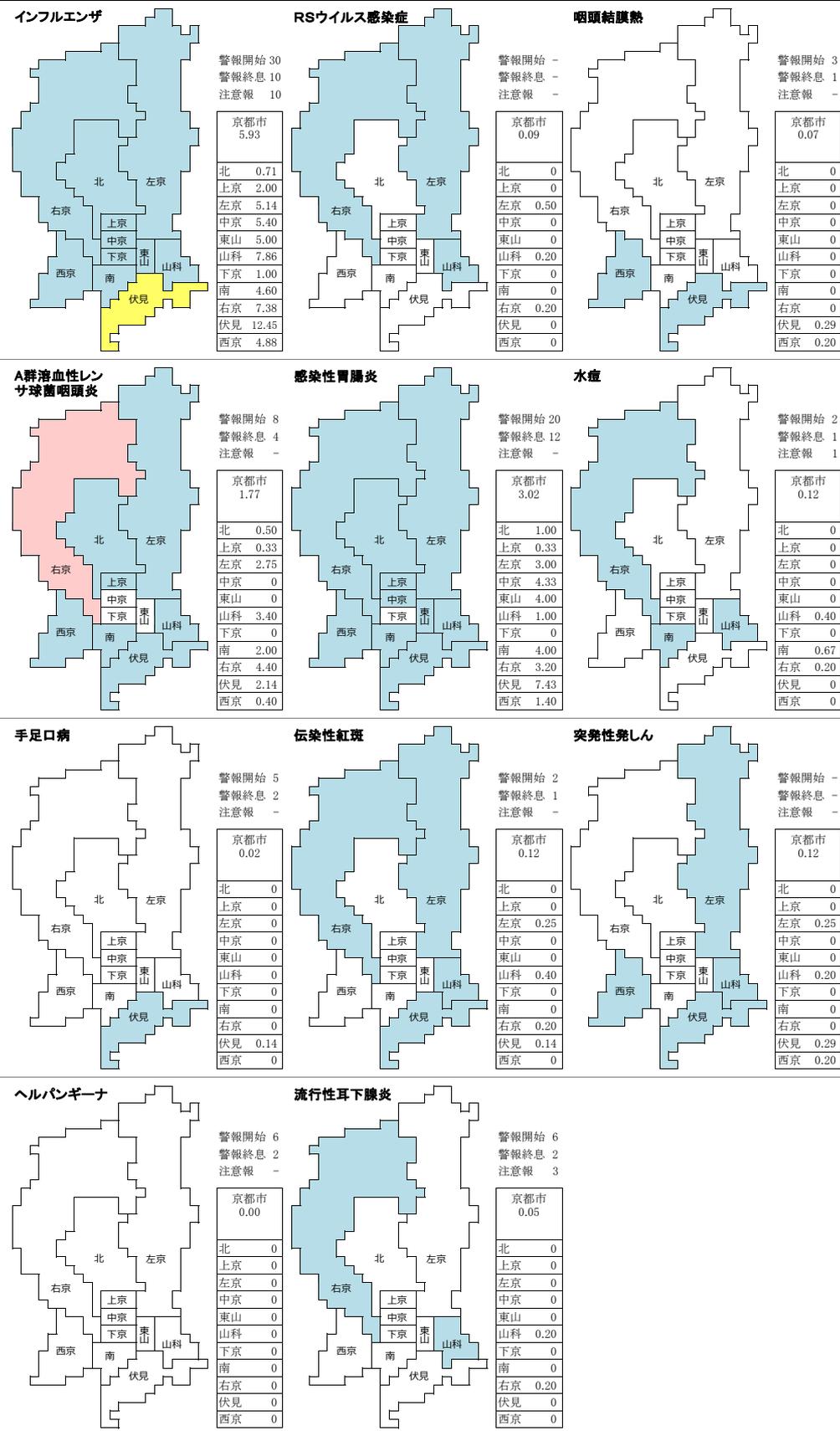
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第8週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。」



第8週(2月17日～2月23日)トピックス: <後天性免疫不全症候群>

京都市では、厚生労働省のエイズ動向委員会の発表に合わせて、半期ごとのエイズ患者*・HIV感染者**数を公表しています。本市では、令和元年7月から12月末までの間、HIV感染者5例の報告がありました(令和2年3月2日公表 下記URL参照)。

昭和62年以降の累積報告数は354例(エイズ患者 116例(32.8%), HIV感染者238例(67.2%))となっています(表1)。推定感染経路では、性行為感染が271例で、全体の76.6%を占めています(図1)。特に、同性間の性行為感染が160例と最も多く、全体の45.2%を占めています。診断時の年齢階級別をみると、30歳代(133例)が最も多く報告されています。一方、年齢階級別における診断時エイズ患者(いわゆる「いきなりエイズ患者***」)率は年齢とともに上昇し、60歳代以上が最も高い比率(70.0%)を示しています(図2)。

近年、HIV感染症の薬剤と治療方法の飛躍的な進歩により、「HIV感染=死」ではなくなりました。継続的な治療は必要ですが、感染後、早期に発見し、適切な治療を行えば、免疫力を落とすことなく、通常の生活が送れるようになりました。さらに、二次感染の予防にも繋がります。京都市では、平日昼間だけでなく、夜間及び土日にも検査を行っています。詳細については、以下のURLを御参照ください。

*エイズ患者 : HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染し免疫機能が低下したことにより、感染症や悪性腫瘍などの指定疾患を発症した状態と診断されたもの(すでにHIV感染者として報告されているものがエイズを発症する等病状に変化を生じた場合は除く。)

** HIV感染者 : HIVに感染し、無症候性キャリアとして報告されたもの、または何らかの症状はあるがエイズの診断基準を満たさないもの

***いきなりエイズ患者: HIV感染後エイズ発症まで通常5～10年要するにもかかわらず、エイズ発症により初めてHIV感染が判明する患者のこと

【エイズ患者・HIV(エイズウイルス)感染者数について(京都市広報資料)】

○<http://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/36-1-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

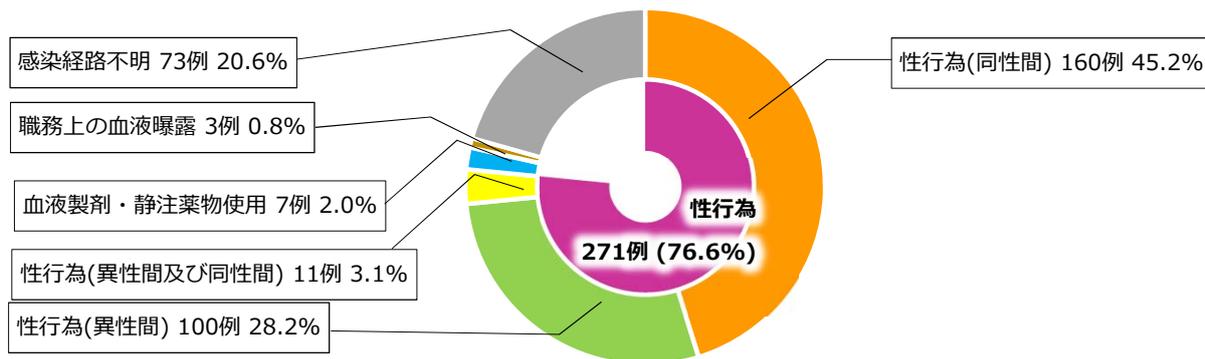
【京都市のHIV検査について(平成29年度から検査体制を変えました。)】

○<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>

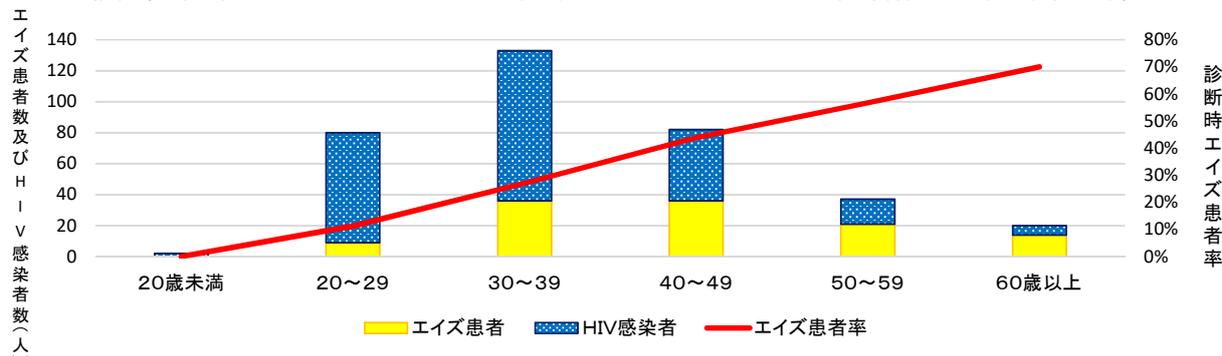
表1 年次別報告数の推移(京都市)

報告年	総数	エイズ患者	HIV感染者	男	女
昭和62年～平成26年	272	87	185	250	22
平成27年	14	6	8	14	0
平成28年	16	5	11	16	0
平成29年	19	9	10	18	1
平成30年	18	6	12	17	1
令和元年	15	3	12	14	1
総計	354	116	238	329	25

図1 京都市の推定感染経路別の報告割合(昭和62年～令和元年)



(図2) 年齢階級別エイズ患者・HIV感染者数及び診断時エイズ患者率(昭和62年～令和元年)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第8週

疾病,行政区別報告数

2019年2月17日～2019年2月23日

データ入手日:2020年2月28日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパンギーナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	5	-	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	1						
上京	10	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
左京	36	2	-	11	12	-	-	1	1	-	-	-	-						
中京	27	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
東山	15	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-						
山科	55	1	-	17	5	2	-	2	1	-	1	-	-						
下京	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
南	23	-	-	6	12	2	-	-	-	-	-	-	-						
右京	59	1	-	22	16	1	-	1	-	-	1	-	-						
伏見	137	-	2	15	52	-	1	1	2	-	-	-	-						
西京	39	-	1	2	7	-	-	-	1	-	-	-	-						
京都市計	409	4	3	76	130	5	1	5	5	-	2	-	1	-	-	1	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパンギーナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	0.71	-	-	0.50	1.00	-	-	-	-	-	-	-	1.00						
上京	2.00	-	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-						
左京	5.14	0.50	-	2.75	3.00	-	-	0.25	0.25	-	-	-	-						
中京	5.40	-	-	-	4.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-
東山	5.00	-	-	-	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-						
山科	7.86	0.20	-	3.40	1.00	0.40	-	0.40	0.20	-	0.20	-	-						
下京	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
南	4.60	-	-	2.00	4.00	0.67	-	-	-	-	-	-	-						
右京	7.38	0.20	-	4.40	3.20	0.20	-	0.20	-	-	0.20	-	-						
伏見	12.45	-	0.29	2.14	7.43	-	0.14	0.14	0.29	-	-	-	-						
西京	4.88	-	0.20	0.40	1.40	-	-	-	0.20	-	-	-	-						
京都市計	5.93	0.09	0.07	1.77	3.02	0.12	0.02	0.12	0.12	-	0.05	-	0.10	-	-	1.00	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第8週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年2月17日～2019年2月23日

データ入手日:2020年2月28日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	409	-	2	3	17	16	22	32	43	45	33	27	123	14	3	12	8	3	3	2	1
RSウイルス感染症	年齢3	4	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1						
咽頭結膜熱		3	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		76	-	1	4	3	6	9	9	9	5	10	2	10	2	6						
感染性胃腸炎		130	1	5	12	11	8	12	12	12	4	8	8	12	4	21						
水痘		5	-	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-	-	-						
手足口病		1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
伝染性紅斑		5	-	-	-	-	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん		5	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-						
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性角結膜炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	5.93	-	0.03	0.04	0.25	0.23	0.32	0.46	0.62	0.65	0.48	0.39	1.78	0.20	0.04	0.17	0.12	0.04	0.04	0.03	0.01
RSウイルス感染症	年齢3	0.09	-	-	-	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02						
咽頭結膜熱		0.07	-	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.77	-	0.02	0.09	0.07	0.14	0.21	0.21	0.21	0.12	0.23	0.05	0.23	0.05	0.14						
感染性胃腸炎		3.02	0.02	0.12	0.28	0.26	0.19	0.28	0.28	0.28	0.09	0.19	0.19	0.28	0.09	0.49						
水痘		0.12	-	-	-	-	-	-	0.07	0.05	-	-	-	-	-	-						
手足口病		0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
伝染性紅斑		0.12	-	-	-	-	0.05	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん		0.12	-	0.05	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		0.05	-	-	-	-	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-						
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性角結膜炎		0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1.00	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第8週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年2月28日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	950	1,052	744	615	628	409
RSウイルス感染症	15	10	10	7	6	4
咽頭結膜熱	10	17	14	11	6	3
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63	102	86	85	91	76
感染性胃腸炎	201	231	231	165	182	130
水痘	20	14	8	16	12	5
手足口病	-	1	2	2	3	1
伝染性紅斑	9	13	13	11	4	5
突発性発しん	9	3	10	7	11	5
ヘルパンギーナ	-	1	1	1	-	-
流行性耳下腺炎	1	2	1	-	-	2
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	5	2	1	-	1
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	1	-	1
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	1,280	1,451	1,122	922	943	642

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	13.77	15.25	10.78	8.91	9.10	5.93
RSウイルス感染症	0.35	0.23	0.23	0.16	0.14	0.09
咽頭結膜熱	0.23	0.40	0.33	0.26	0.14	0.07
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.47	2.37	2.00	1.98	2.12	1.77
感染性胃腸炎	4.67	5.37	5.37	3.84	4.23	3.02
水痘	0.47	0.33	0.19	0.37	0.28	0.12
手足口病	-	0.02	0.05	0.05	0.07	0.02
伝染性紅斑	0.21	0.30	0.30	0.26	0.09	0.12
突発性発しん	0.21	0.07	0.23	0.16	0.26	0.12
ヘルパンギーナ	-	0.02	0.02	0.02	-	-
流行性耳下腺炎	0.02	0.05	0.02	-	-	0.05
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.20	0.50	0.20	0.10	-	0.10
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	1.00	-	1.00
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	21.60	24.91	19.73	17.11	16.43	12.40

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。